

「プラスチックと私たちの未来

～ 美しい海を取り戻そう ～」

令和3年
10月13日(水)
5校時
6年2組
森田教諭



生分解性プラスチックは、本当に分解されるのだろうか。

9 / 10時間

実験後は表面がザラザラしているな。

実験前は透明だったものが、実験後は表面が白く濁っている。

海水の中の生分解性プラには線や筋が見える。

どうやら変化は、外側から起きているみたいだなあ。



通常のプラは 土でも海水でも大きな変化が見られないね。

土の中の生分解性プラには小さなものがついているぞ。

土の中は微生物がたくさんいて、水があつてという条件が揃っているからかなあ。



生分解性プラは土の中の方が 変化が大きいね。



プラスチックに傷がついたことは、変化しているとは言えるが、分解しているとは言い切れません。土も海水も、分解の理由付けとしては難しいと思います。



今日は、実験を始めて、10日間後の結果なので、引き続き実験を続けて、変化の様子や進み具合を探っていきたいと思います。

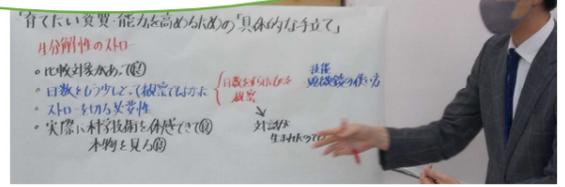
自然事象との対話

児童相互の対話

学級全体での対話

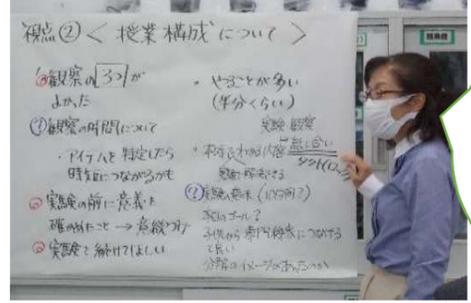
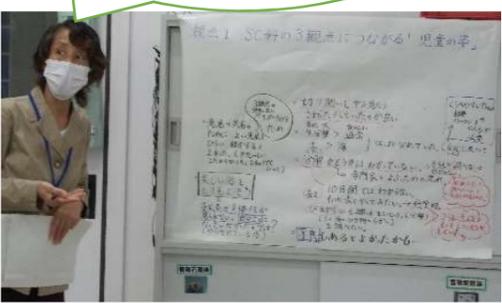
生分解性プラスチックの開発品の実物を見ることや科学技術を体験できたことはとても有効。

見られた変化が分解なのかどうかという疑問は、今後の専門家招聘の設定につながっていく。



研究協議会

講師：文部科学省初等中等教育局
教育課程課 教科調査官
鳴川哲也先生



実験前後の比較、生分解性プラと通常プラの比較、土の中と海水の中の比較、という3つの比較の視点が有効。

